

中村学園大学 流通科学研究所 第17回国際セミナー
海外レポート

韓国の事例「アグフレーション時代」
韓国のフードサプライチェーンの混乱と課題」

順天大学校

助教授 嚴 智 凡 氏

皆さん、こんにちは。順天大学校農業経済学科の嚴智凡と申します。中村学園大学流通科学研究所の国際セミナーにご招待いただき、誠にありがとうございます。

私の発表は、コロナや為替変動、国際紛争など、国際的な危機状況の中で、韓国のフードサプライチェーンはどのような変化を見せており、今後どのように対応していくかについてです。

それでは、発表させていただきたいと思えます。

目次はご覧のとおりです。まず、業種的な状況を解説し、食品産業にどのような動きがあるか見ます。次に、流通及び消費の変化を見て、現在、政府の対応方向及び課題について論じます。

まず、国際的な危機状況がフードサプライチェーンにどのように影響するかを見ましょう。

国際穀物の価格は、コロナによる物流の支障や穀物の産地の異常気象の発生によって、需給状況が悪化するなどの理由で、2020年下半年から上昇傾向に転換されました。

最近のウクライナの事態は、国際穀物の需給が余裕のない状況で発生し、国際穀物価格に大きな影響を与えました。ウクライナとロシアは穀物の主要生産地と輸出国であり、両国の穀物輸出政策の変化や紛争は、国際穀物価格の急騰をもたらしてきました。

韓国は、ウクライナとロシアから、加工用の

トウモロコシや飼料用の小麦を輸入しており、依存度は非常に高いほうです。今年度上半期までの穀物所要量は確保していますが、下半期契約物量を調達するのは厳しい状況にあります。

この図は、輸入穀物関連産業の関連図です。韓国は、配合飼料及び食品製造業に使っている穀物の大部分を輸入に依存しており、国際穀物市場の需給及び価格変動制が国内配合飼料、加工食品、畜産物、外食業の生産活動及び物価変動制に転移するものとみられます。

国際穀物価格と世界食料価格は、2020年度第4四半期から急騰し、2022年度第1四半期の国際穀物価格は、前年度と比べて30%上がっています。国際穀物の平均輸入価格も今年度第1四半期に上昇しました。これにより、国内消費者物価も同伴上昇している状況です。

特に国際穀物価格上昇が主な要因と言える加工食品の消費者物価上昇は、2021年度第3四半期に2.2%上昇した上、急騰する推移を見せており、2022年度第2四半期は7.6%まで悪化しました。

これは、2007年から2008年のアグフレーションと、2011年から2012年の穀物価格の上昇のときと同様のパターンであり、消費者物価安定のための対策が求められます。

次は、食品産業の動向です。

コロナが広がるにつれて、食品製造業の成長は鈍化し、外食業は回復傾向にあります。食品製造業GDPは、2020年度に2.6%増加し、2021年には前年と比べて1.8%増加しました。

外食業GDPの場合、2020年度は18.0%減少しましたが、2021年は1.1%小幅増加を示しています。食品産業の市場規模は徐々に増加していますが、付加価値創出の面で、他産業に比べて不振な状況です。

業種別に見ると、2019から2021年の国内販売額が増加した食品群は、肉加工品が最も高く、動物性加工食品、食用の餅類、豆腐類などがあります。増加要因は、内食の増加と健康の簡便性の好みが増えたためと考えられます。

これに反して減少した食品群には、ココア加工品類、ジャム類、麺類などがありました。これらの外食、給食需要の萎縮と、糖類に対する忌避が反映されたようです。

外食業の業種別に見ると、2019年から2020年度の売上高は、飲み屋とファーストフード店、韓国料理屋が大幅に減少したのに対し、包装販売専門店やパン屋、飲料店の減少幅は少ないと推定されます。

2021年、韓国料理店の生産指数はコロナ以前の水準にほぼ回復し、韓国料理店の生産指数は回復が遅い傾向を示しています。

次は、農食品の流通と消費の変化を見ます。

コロナの状況が続くにつれて、食料品を主に購入する場所のうち、通信販売が占める割合が増加しており、主な購入場所の選択理由は、交通の利便性が高くなっています。また、オンラインによる取引額は、2021年25.7兆ウォンであり、2017年の10倍規模に成長しました。外食業者が配達アプリを利用する割合も最近急激に増えており、配達市場の変化が外食業を左右するものと見られます。

農産物流通も過去の伝統的な経路ではなく、流通ベンダーなどの農産物販売方式を通じての割合が増えています。これは生産者が持っていたいろいろな問題点を補完しながら流通ベンダーが成長しており、流通ベンダーが主導する市場へ再編される可能性を示唆しています。

こうした変化に合わせて、簡便、新鮮、健康利益、カスタマイズされた食品市場が成長しています。特に、即席調理食品やミルキットが家庭簡便食市場を主導しています。

最後です。ここではアグフレーション時代の対応方向について論じます。

国際穀物価格、原料価格の上昇は、食品物価上昇につながっており、食品産業の安定を図るための対策が求められます。政府は食品関連の重大対策を設けました。これは、食品原料に対する割当関税の適用、及び飼料食品原料購入資金の0.5%引き下げ措置などの対策を出しました。これは限界がある短期的な解決策であります。

長期的には、今後、国内穀物の自給率向上のための対策づくりに集中しなければなりません。また、海外農業開発・穀物流通網の進入事業などが求められています。

韓国は、グローバル穀物流通業者を育成するために、政府と民間企業がコンソーシアムのかたちで事業を推進したことがあります。しかし、経験不足と高い参入の障壁で成果を出せませんでした。今後、今でも穀物メジャーに対応できる企業を育成し、独自に輸入網を確保しなければならないと思います。

農食品流通環境の変化に対応するためには、物流システムのデジタル化が必要だと思います。輸送物流施設や機器の高度化、データ基盤の電子化による需給調整で効率性を達成できると思います。

また、農産物については、オンライン市場の成長に伴う流通面での対応が求められます。オンラインを通じて、産地と需要先間の契約栽培基盤を構築し、安定した国産原料を確保して供給し、受取価格を安定化することで、外食業や食品産業の安定にも貢献できると思います。

ご清聴ありがとうございました。

アグフレーション時代 韓国のフードサプライチェーンの 混乱と課題



国立順天大学校
麻智凡 (農業経済学科 助教授)
umjibum@snu.ac.kr



1

CONTENTS



- 01 国際紛争とサプライチェーン
- 02 食品産業をめぐる動向
- 03 農産品の流通と消費の変化
- 04 アグフレーション時代対応方向

2

01 国際紛争とサプライチェーン

1. 国際紛争による国内影響
2. 穀物価格の上昇に伴うサプライチェーンの混乱
3. 国際穀物価格の上昇に伴う農産品消費者物価上昇

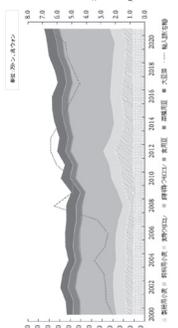


3

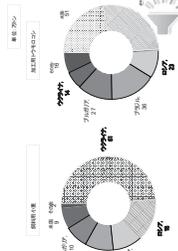
国際紛争による国内影響

- 韓国はウクライナとロシアからの加工用のトモロコシと飼料の小麦の依存度が
高い。
- 他国からの代替調達が可能と思われるが、それに伴う価格上昇は避けられない。
- 配合飼料および食品製造業に使う穀物のほとんどを輸入に依存している。



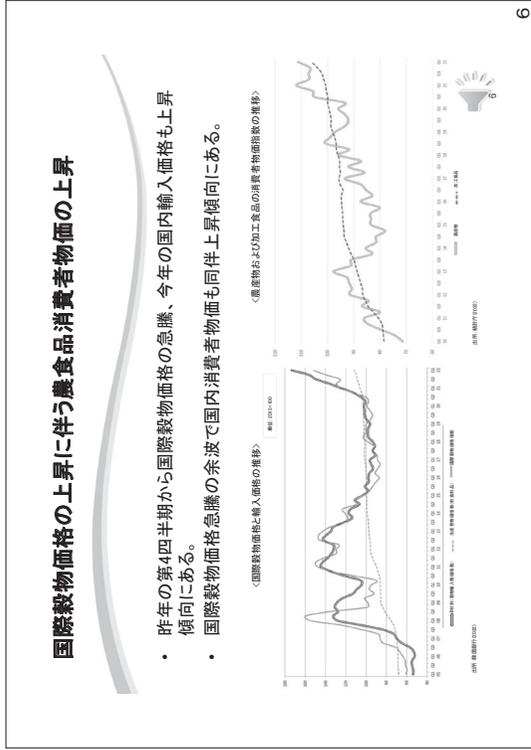


＜国産農産物の輸入と加工用トモロコシ輸入＞

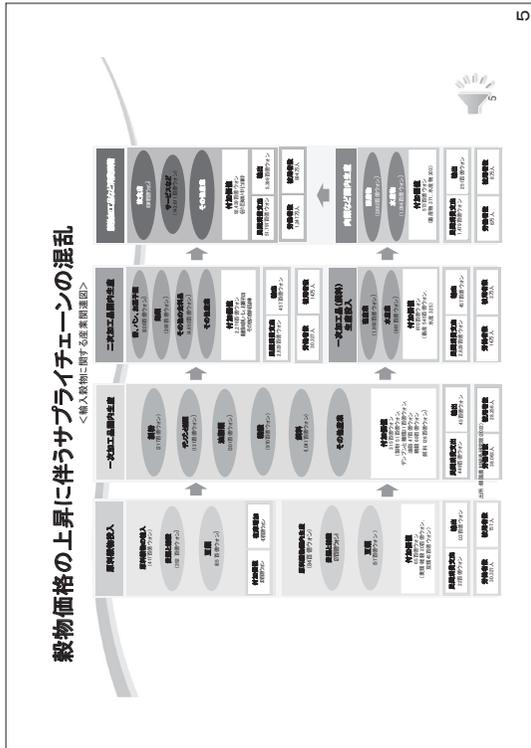


＜国産農産物飼料小麦と加工用トモロコシ輸入＞

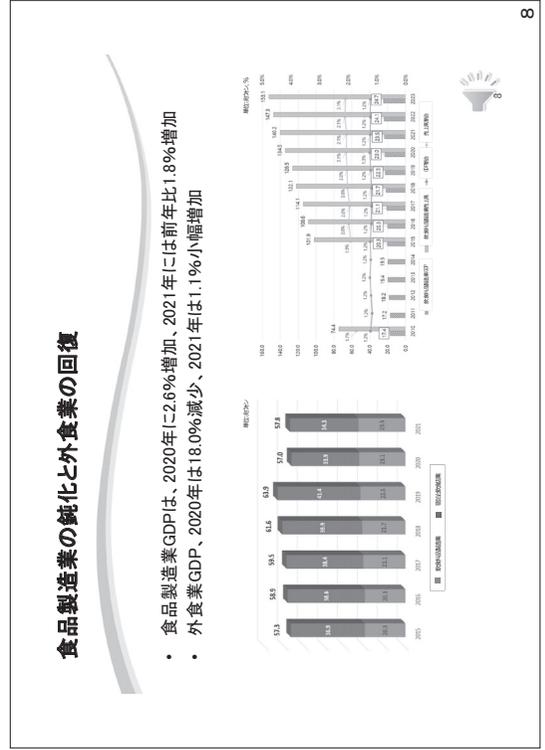
4



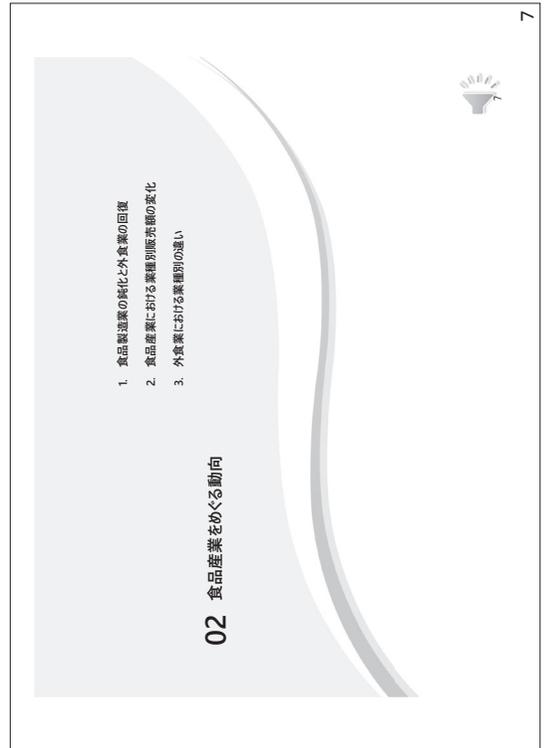
6



5



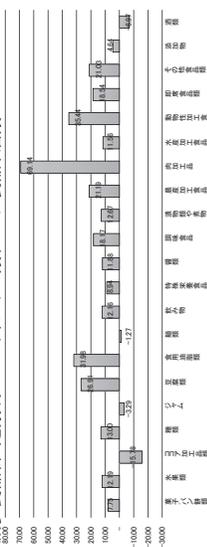
8



7

食品産業における業種別販売額の変化

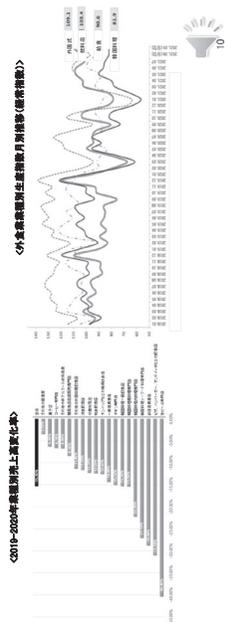
- 2019-2021年の国内販売額増加食品群 - 肉加工品、動物性加工食品、パン(餅類、豆腐類、醬類、調味食品、漬物類、果菜加工品、即席食品、健康機能食品など
- 減少食品群- 麺類(ラーメン)、ジャム類、ココア製品、酒類



9

外食業における業種別の違い

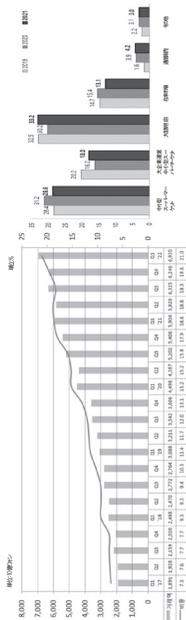
- 業種別売上高は酒店やファーストフード店、韓国料理店が大幅に減少した反面、包装販売専門店や菓子、飲料店は減少幅が少ないと推定される。
- 2021年の外国料理レストランの生産指数は、コロナ19拡散前の水準に回復した。



10

- オンラインプラットフォームが主導する食品流通
- 配達市場の変化が促された外食業再編
- 新鮮食品(農産物)流通経路の変化
- 新成長食品市場の発達

03 農産物の流通と消費の変化



11

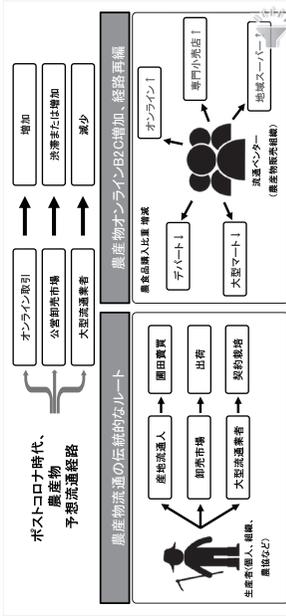
オンラインプラットフォームが主導する食品流通

- 非対面オンライン取引が食品小売販売の20%以上に急増
- 食料品主購入場所のうち通信販売が占める割合の増加

12

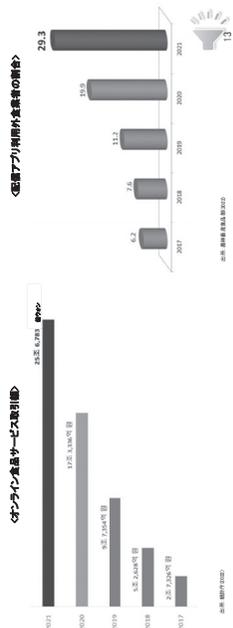
新鮮食品（農産物）流通経路の変化

- ・ オンライン取引の増加に伴い、大型流通業者の購入割合が減少。
- ・ 農産物販売組織の役割が強調されている。



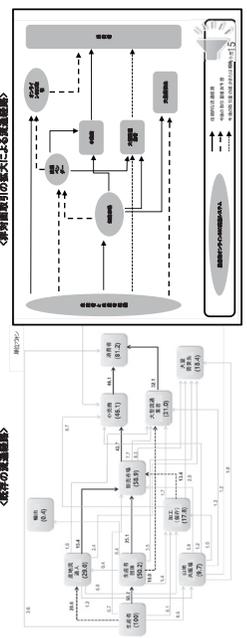
配達市場の変化が促された外食業再編

- ・ オンラインによる食品サービス取引額は19年9.7兆ウォンから21年25.7兆ウォンに増加
- ・ 外食業者の配達アプリを利用する割合は19年11.2%から21年29.3%に急増



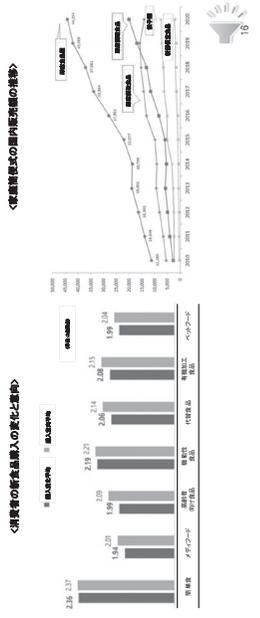
新鮮食品（農産物）流通経路の変化

- ・ 農業者の在庫処理負担、専門性欠如、マーケティング能力不足などの問題を補完しながら流通ベンダーが成長している。
- ・ 農産物流通ベンダーが主導する市場への再編可能性 (オンラインショッピングモール直接取引方式で8割流通)



新成長食品市場の発達

- ・ コロナ19抑制にも成長する市場は、簡便、新鮮、健康利益、カスタム食品群
- ・ 家庭簡便式は即席調理食品、新鮮便宜食品、ミルクキット主導の成長傾向



04 アグリレーション時代対応方向

1. 原材料価格上昇と物価圧力に対する対応
2. 流通環境変化に対する対応

 17

原材料価格上昇と物価圧力に対する対応

- 価格引き上げの懸念の高い食品原料に割当関税0%適用 (2022年年末まで)
- 政策資金利引き下げ - 飼料食品原料購入資金0.5%引き下げ措置

品目	支援方式	現行税率(%)	変更
大豆油		5.0	0.0
ひまわり種油		5.0	
小麦	割当関税の新規適用	1.8	
小麦粉		3.0	
豚肉		22.5	25.0
飼料用根菜類	物量拡大 70万 → 100万トン	5.0	
卵加工品	割当期間の延長	8.0	30.0

 18

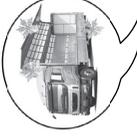
原材料価格上昇と物価圧力に対する対応

- **国内穀物自給率の向上**
 - 2020年の穀物自給率は20.2%で、小麦と大豆を中心に自給率向上に取り組み
 - 小麦自給率5% (現在0.8%)、大豆自給率33% (現在30.4%) 達成を目標
 - このために専門生産団地育成、排水改善事業、共同選別費支援事業実施予定
- **海外農業開発および海外穀物流通網進出事業**
 - 国内生産が難しい品目の場合、海外に栽培地を設け、国内に流通する海外農業開発が要求される。
 - 海外食糧輸出ターミナルの持分確保及び買収を通じて韓国への食糧流通網を確保することにより、国内企業の海外生産物量を安定的に調達

 19

流通環境変化に対する対応

- 食品物流システムのデジタル化



輸送物流施設、機器の高度化

- 農産物輸送車両、輸送容器、輸送ハレットなど輸送物流施設、設備の高度化
- 農産物のコールドチェーン流通が可能
- 定温ボックス車両(ウイングボクシ車両)



データ駆動型電子化

- 包装ボックス、ハレット、輸送車両センサー、電子タグ付き農産物輸送情報、物流情報
- データ化
- 第4次産業革命技術の利用ビッグデータマーケティング、需給調節、効率性達成

 20



流通環境変化に対する対応

- データ駆動型卸売市場取引方式の切り替え
- 主要品目産地 - 需要先契約栽培基盤の構築

農産物 オンラインB2B 取引を活性化

- 契約栽培システム**
 - 大量産物契約栽培システム
 - 受取団体の安定化
 - 自給率の向上, 原料料中心
- 大量需要品目中心**
 - 加工、外食業界等の大量需要品
 - 品目中心
 - キャベツ, 大根, ニンニク, 玉ねぎ, ジャガイモ, キヤベツ
- 生産者組織の中間役割**
 - 農家交渉力の向上
 - 契約栽培の標準化
 - 品質確保, 安定供給システム
- 材料・販路確保**
 - 生産原料の安定確保
 - 大規模農家, 生産者組織
 - 安定的な栽培確保

21